

11月8日 校長講話「しあわせのバケツ」

今日は『しあわせのバケツ』というお話です。これがしあわせのバケツと言います。世界中の誰もが持っています。いつもは見えません。今日は校長先生が特別見えるように作ってきました。この『しあわせのバケツ』。お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんお友だちそしてあなたも持っています。

なぜしあわせのバケツを持っているのでしょうか？それは、みんなの良い心や温かい気持ちを入れておくためなのです。



バケツの中には何が入っているか見てみましょう。ボールです。言葉が書いてあります。「ありがとう」「あなたのおかげ」「たすかったよ」「がんばれ」「もう少し」「大丈夫」「心配いらないよ」「おおめでとう」「すごいね」「がんばったね」

思いやり 親切 感謝 励まし 賞賛 笑顔 そんな言葉です。バケツがいっぱいになると、とっもしあわせな気持ちになりますが、バケツが空っぽになると、悲しく、そして、寂しくなってしまう。

みんな自分のバケツをいっぱいになりたいですね。だれでもそう思うと思います。どうすれば、いっぱいになれるのでしょうか。これから先生がやってみますので、よく見て考えてください。

これはお友だちのバケツ。周りにいる人のバケツです。

「ありがとう」「あなたのおかげ」「たすかったよ」「がんばれ」「もう少し」「大丈夫」「心配いらないよ」「おおめでとう」「すごいね」「がんばったね」「いいよ」「いっしょにやろう」「よかったね」「ごめんね」そんな言葉で、周りの人のバケツにボールが入ります。すると、白いバケツ（自分）にも、ボールが入ります。

まず、**思いやり、親切、笑顔、励まし、賞賛、感謝**で、周りの人のバケツを一杯にしてあげます。そうすると不思議なことに自分のバケツもいっぱいになるのですね！

人を幸せにすると、自分も幸せになるのです。これが、バケツを幸せでいっぱいにする方法です。





反対に、バカにしたり、意地悪なことをしたり、悪口を言ったり、無視したりすることは、人のバケツに手を突っ込んで、空っぽにしていることになります。特にいじめは、「しあわせのバケツ」を空っぽにするだけでなく、時にはバケツをこわしてしまいます。命を落とすこともあります。

「しあわせのバケツ」を空っぽにする人のバケツはどうなっていると思いますか。そう、空っぽです。

当たり前です。いじめたり、意地悪したりして、いやな気持ちにさせる人に優しい温かい言葉は返ってきません。感謝もされません。そういう人は他の人のバケツを空っぽにすると、自分のバケツがいっぱいになると思っていて、自分のバケツが空っぽになっていることに気づきません。そんな方法ではバケツはいっぱいになりません。人のバケツを空っぽにしても、絶対に自分のバケツはいっぱいになりません。



毎日の生活の中で、私たちはバケツを幸せでいっぱいにししたり、反対に、バケツに手を突っ込んだりしています。

みんなに2つ聞きます。

一つ目、あなたは、周りの人のバケツを幸せでいっぱいにしてますか？

それとも、バケツに手を突っ込んでいますか？

二つ目、今あなたのバケツはどのくらいしあわせが入っていますか？いっぱいですか？

この二つの問いかけを、時々自分にしてください。学期に1回くらい問い返してみてください。大人になったら、1年に1回でいいから思い出してください。



今週からなかよし旬間です。

みんながしあわせにそしてなかよしになるために、自分は何ができるかを考える機会にしましょう。